

(お知らせ)  
東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (E A N E T)  
第 16 回政府間会合の結果について

平成 26 年 12 月 15 日 (月)  
環境省水・大気環境局国際協力推進室  
室 長：筒井 誠二 (6 5 3 2)  
環境省水・大気環境局大気環境課  
課長補佐：藤田 宏志 (6 5 4 7)  
直通：0 3 - 5 5 2 1 - 9 0 2 1  
代表：0 3 - 3 5 8 1 - 3 3 5 1

東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (E A N E T) の第 16 回政府間会合が、11 月 25 日 (火) ~26 日 (水) に、インドネシア・ジャカルタで開催され、E A N E T の強化のための文書へのインドネシアの署名、政策決定者向け報告書 (第 3 版) の承認、E A N E T のスコープ拡大を含む将来発展に関する検討等が行われました。

## 1. 会合の概要

- 日 程：11月25日 (火) ~26日 (水)
- 場 所：インドネシア・ジャカルタ
- 主催者：E A N E T 事務局 (国連環境計画・アジア太平洋地域資源センター)  
E A N E T ネットワークセンター  
(一般財団法人日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター)
- 参加者：E A N E T 参加 13 か国の代表 (カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、韓国、ロシア、タイ、ベトナム) 等
- 我が国からの出席者：環境省、外務省の担当官等

※ E A N E T の概要については、別添 1 参照。

## 2. 結果の概要

本会合における主な結果は次のとおりです。

- (1) E A N E T の強化のための文書へのインドネシアの署名  
参加国の財政的貢献等、E A N E T の基盤を強化するための E A N E T の強化のための文書 (第 12 回政府間会合にて採択) について、インドネシアが署名し、全ての加盟国 (13 か国) が署名を終えました。
- (2) 政策決定者向け報告書 (第 3 版) の承認  
科学的に重要な情報及び E A N E T の活動成果や今後の方向性等をまとめた、政策決定者向け報告書 (第 3 版) の内容及び公表について承認されました (報告書の概要は別添 2)。

(3) E A N E Tの対象範囲の拡大を含む将来発展に関する検討

昨今東アジア地域においてオゾンや粒子状物質等による大気汚染が顕在化しつつあること等を踏まえ、E A N E Tモニタリング対象物質及び活動範囲の拡大等について、意見交換が行われました。来年の政府間会合等におけるE A N E T次期中期計画（2016年～2020年）の採択に向け、議論を継続することとなりました。

**3. 今後の対応**

酸性雨等の広域大気汚染問題は東アジア地域共通の課題であり、我が国としては、引き続きE A N E Tの活動を技術的・財政的に支援していくとともに、E A N E Tを東アジア地域における大気環境管理のための重要な基盤として、その活動の充実・強化を図ることとしています。

## 東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）について

### 1. EANET発足の背景

- 東アジア地域における近年のめざましい経済成長等に起因して、酸性雨の原因となる大気汚染物質の排出量が増加しており、今後もさらなる増加が予測されていることから、近い将来、その影響が深刻なものとなることが懸念。
- このため、東アジア地域における酸性雨問題に関する地域協力体制の確立を目的として、2001年1月からEANETが本格稼働を開始。
- EANETは、これまで財政面・技術面ともに日本が主体となって進めてきた取組であり、我が国としてはEANET活動の発展・拡大により、大気環境管理に向けた地域の国際協力が推進されることを重要視。

### 2. EANETの概要

#### (1) 参加国

- カンボジア（2001年から）、中国、インドネシア、日本、ラオス（2002年から）、マレーシア、モンゴル、ミャンマー（2005年から）フィリピン、韓国、ロシア、タイ、ベトナムの計13カ国

#### (2) 活動目的

- 東アジア地域における酸性雨問題の状況に関する共通理解の形成促進。
- 酸性雨防止対策に向けた政策決定に当たっての基礎情報の提供。
- 東アジア地域における酸性雨問題に関する国際協力の推進。

#### (3) 活動の概要

- 共通の手法を用いた酸性雨モニタリングの実施（注：大気汚染物質のモニタリングも実施）
- データの収集、評価、保管及び提供
- 精度保証・精度管理（QA/QC）活動の推進
- 参加国への技術支援と研修プログラムの実施
- 調査研究、普及啓発活動の推進
- 関係国際機関との情報交換

#### (4) EANET事務局とネットワークセンター

UNEP・アジア太平洋地域資源センター（RRC.AP）（タイ）がEANET事務局、（一財）日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター（新潟市内）が技術的対応を行うネットワークセンターに指定されている。

#### (5) 最近の動向

- 2005年に開催された第7回政府間会合において、EANETへの財政的貢献のための健全な基盤を提供する文書について議論を開始するとの決定を採択（新潟決定）。
- その後の議論を経て、「EANETの強化のための文書」が2009年の第11回政府間会合において最終化され、2010年の第12回政府間会合では、ハイレベル閣僚会議において7か国が同文書に署名した。その後、更に6か国が署名を完了した。
- EANETの活動範囲の拡大については、「EANETの強化のための文書」においてその余地が認められたが、拡大の内容等について参加国間で意見を調整中。

## EANET 政策決定者向け報告書 (第3版) (概要)

### 1. 政策決定者向け報告書の背景

- 東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (Acid Deposition Monitoring Network in East Asia (EANET)) は、酸性雨及びその他の関連する大気汚染物質に係る地域協力を推進するために 2001 年に本格稼働を開始した科学的なイニシアチブである。
- 本報告書は、科学的に重要な情報、及び EANET の活動成果や今後の方向性等を EANET 参加国の政策決定者及びその他の関係団体に提供するために定期的に発行している (2005 年に第 1 版、2009 年に第 2 版を発行)。

### 2. 報告書 (第 3 版) の概要

- アジアにおける急速な経済発展の結果、近年、大気環境は、特に悪化してきており、今後、40 年間に亘って更に悪化の傾向にあるものと推測される。
- 都市域では、過去 10 年間の PM<sub>10</sub> のレベルが、世界保健機関 (WHO) の年間ガイドライン値を著しく超過しており、より深刻である。
- 国連の予測によれば、アジアの総人口は、2050 年までに 50 億人を超過するとみられ、このうちの 65% が都市域に住むと考えられており、これは早期死亡の危険のある人口数の増加をもたらすことになると思われる。
- アジアには、地域の大気汚染を削減するための多くのイニシアチブがある。これらのイニシアチブの間の戦略的な連携の強化が重要である。
- EANET は、この十数年間、多くの成果を得てきたが、現在のアジアの大気環境を鑑みると、EANET は、アジアにおけるより清浄な大気環境、持続可能な発展に貢献するため、より大きな役割を担うことが期待されている。
- そのため、現在は、EANET の活動範囲の拡大に関する検討を行うのに適切な時期であり、地域の他のイニシアチブと力を合わせつつ、活動を拡大していくこととしている。